

E-11 児童の心身発達と乳児期の栄養法と知能  
の関係とその環境条件について(その1)  
乳児期の栄養法と知能との関係  
(第5報)

宮崎大教育 秋山 露子

1. 乳児期の栄養法では母乳栄養法が最もすぐれた栄養法として認められているにもかかわらず最近牛乳の母乳化の進歩は人工栄養法による者の身体発達がすぐれていることが認められてきているので人工栄養法による者が年々増加している。しかし乳児期の栄養法と知能との関係についてはほとんど明らかにされていないので演者はその関係を明らかにすることを目的とした。

2. 質問紙によって乳児期の栄養法を生後6カ月以内の栄養法別に分類した。身体発達は学年はじめの身体検査による結果と知能検査はそれぞれの年齢に応じた知能検査による知能偏差値を用いた。また、知能発達に影響すると思われる環境条件については質問紙による結果を用いた。

3. 10歳児延べ2,414名と中学生534名および小学生455名についての調査結果では平均知能偏差値は混合栄養群の知能が最も高く母乳、人工栄養群の順であったが生活環境を中流以上にしぼった中学生では平均知能偏差値は母乳、混合、人工栄養群の順でいずれの場合も人工栄養群は母乳、混合栄養群に比べて知能極上位群がなく、極下位群が最も多いことが認められた。